

臨床検体使用に関するお知らせ

『研究課題名：小児期発症バセドウ病患者の寛解率に関する検討』

【研究の背景および目的】

- バセドウ病は、甲状腺ホルモンが過剰に作られる病気です。わが国では、バセドウ病の小児患者さんは、「抗甲状腺薬」という飲み薬で治療します。しかし、半数以上の患者さんは、お薬を中止した後、再発すると報告されています。
- 「抗甲状腺薬」については、治療を始める時の量は決まっていますが、薬の減らし方や、薬を中止するタイミングは施設によりやや異なります。私達は、治療終了後の再発を少なくする可能性を考え、バセドウ病の原因である「自分自身の甲状腺を刺激して攻撃してしまう抗体」が陰性であることを複数回確認してから治療を中止するようにしています。
- 本研究の目的は、以下 2 つです。
 1. 「抗甲状腺薬」による治療終了後に、どのくらいの割合の患者さんが再発したのかを調べます。これまでの報告と比べ、再発する患者さんの割合が低ければ、私達の治療中止基準（甲状腺を刺激する抗体が陰性であることを複数回確認してから治療を中止する）が有用であることがわかります。
 2. どういう患者さんが再発するのか、再発を予測できる指標があるのかを調べます。

【研究対象および方法】

- この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。
- 1993年7月～2018年7月の間に、東邦大学医療センター大森病院小児科において、抗甲状腺薬による加療を受けた患者さん(約50例)を対象とします。
- 診療録(カルテ)から、以下のデータを集めます。
 - ・患者さんの性別、バセドウ病と診断されたときの年齢、ご家族の甲状腺の病気の有無
 - ・バセドウ病と診断された時の検査値
 - ・診断された時から抗体が陰性になるまでの期間
 - ・抗体が陰性になってから、薬を中止するまでの期間尚、小児科の診療終了後に、バセドウ病の再発で、当院内科を受診なさった患者さんに関しては、当院内科受診時のデータも使わせていただきます。
- 今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。

- 本研究に関してご質問のある方、診療情報を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院 小児科

職位・氏名 准修練医・吉澤 和子

助教授・麻生 敬子

准教授・佐藤 真理

電話 03-3762-4151 内線 6650(小児科)

